

平成15年度 施策評価表

○総合計画における位置付け等

平成15年5月26日記入

基本目標	I ▼ 学びあいあたたかさのある福祉文化都市をめざして	施策コード	11130
政策名 (章)	第1章 安心して生活できる福祉社会をつくります	評価担当課	保健福祉部 ▼
基本施策名 (節名)	第1節 福祉文化の創造とバリアフリーの推進		保健福祉総務課
施策名	バリアフリーによる福祉のまちづくり	課長名	田邊 誠

1 施策の概要・目的

福祉活動への主体的な参加を促進し啓発活動を積極的に推進するとともに、福祉教育の充実を図り市民の理解と関心を深める。また、公共的建築物や、道路、公共交通機関、公園などの整備は、バリアフリーを推進し障害者や、高齢者等の社会参加に向け移動手段の充実に努める。

2 施策の現状

社会福祉の推進について、福祉月間(9月15日から10月15日)事業の中で市民に福祉への理解と認識を深め、福祉活動への参加を促進している。
また、障害者や、高齢者への福祉機器の情報提供や、相談を実施している。さらに、駅舎にエレベータ設置費の一部を助成し移動の円滑化を推進している。

3 総事業費及び人員

(1) 施策に要している総事業費

391,801 千円……構成事務事業全体の事業費合計(人件費含む)

(2) 市民1人当りの事業費

636 円/人……人口は、**61.6** 万人とした。(平成15年4月1日現在人口)

(3) 全施策中の順位(事業費)

この施策の市民一人当たり事業費は、全123施策のうち、第 **59** 番目です。

(4) 施策に要している人員

3.42 人……構成事務事業全体の人員合計

4 評価指標

	指標名および指標式	指標の意図	現状値と目標値			目標
			現状	単位	0 50 100	目標年度
指標1			現状	単位	0 50 100	目標年度
			目標	単位	0 50 100	達成度 %
指標2			現状	単位	0 50 100	目標年度
			目標	単位	0 50 100	達成度 %
指標3			現状	単位	0 50 100	目標年度
			目標	単位	0 50 100	達成度 %

5 必要性…市民ニーズに合っているか、行政需要の変化に対応しているか

ハートビル法の改正(平成15年)や神奈川県福祉の街づくり条例の改正(平成14年)が行われバリアフリーに対する関心の高まりと取り巻く環境が変化している。その中で福祉への理解を深めるための啓発活動はより必要とされ社会的ニーズに対応している。

6 有効性…期待される効果があがっているか

駅舎にエレベータ等を整備する際に経費の一部を助成し、障害者や高齢者に配慮した環境整備が進んでおり円滑な移動に効果をあげている。
バリアフリーによる福祉のまちづくりは、市民が障害者や高齢者の基礎的知識を学習するとともに互いに交流を深め、理解しあうための有効な施策である。

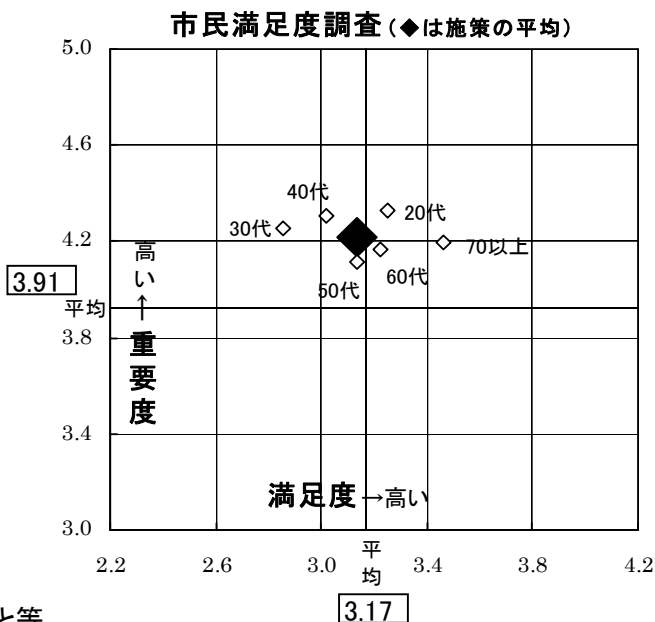
7 効率性…費用対効果が優れているか、もっと大きな効果が得られるものはないか

障害者や高齢者の社会参加意識が高まり、各種のバリア解消に対するハード整備が進み実績をあげてる中で、バリアフリーのまちづくりに向けて福祉教育や啓発活動を堅実に進めることが効率性を高めている。

8 市民満足度調査結果からの分析(平成15年度調査)

◆この施策の満足度は、3.132で、調査した51施策の中で31番目です。
◆この施策の重要度は、4.219で、調査した51施策の中で9番目です。
◆この施策の改善要望度は、0.769で、調査した51施策の中で9番目です。
◇年齢別にみると、満足度は70歳以上で最も高く、30歳代で最も低くなっています。重要度は40歳代以下の若い層で比較的高くなっています。

市民満足度調査は、基本施策51項目(節)について調査しています。したがって、上位の基本施策が同じ場合は同じ内容となっています。(「〇総合計画における位置付け等」参照)

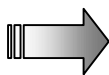


9 課題…施策を実現するにあたり、課題となっていること等

福祉月間における事業が多く市民が参加出来るような内容にするよう検討し、参加者の増加を図り啓発活動を充実させることが重要と考えられる。
また、エレベーターやエスカレーター等整備は、他の施策である「人にやさしいまちづくり」と連携をとりながら推進する必要がある。

10 今後の方向性(一次評価)

今後の方向
<input type="checkbox"/> 拡充する
<input checked="" type="checkbox"/> 現状維持する
<input type="checkbox"/> 見直し



説明及び具体的内容

バリアフリーによる福祉のまちづくりを推進するためには、公共建築物や道路、公共交通機関における施設面のバリアフリー化も大変重要で今後も推進しなければならないが、心のバリアを取り除く活動・啓発がさらに重要であり、障害者や高齢者の社会進出等の手助けとなる現在の施策を中心として、推進し事業内容の充実を図る。

11 2次評価

2次評価	説明
<input checked="" type="checkbox"/> A	道路や公共施設における段差の解消などハード面の整備のほか、障害者や高齢者の社会進出に向けた支援などソフト面におけるバリアフリーについても一層の充実を図ること。
<input type="checkbox"/> B	
<input type="checkbox"/> C	

12 外部意見

外部意見	説明
	歩行者動線の確保が図られる施設整備を推進・誘導するとともに、啓発・周知活動を進めるべきである。

